



鹿児島県ユニークベニュー活用促進事業事例集（令和4年度版）

UNIQUE VENUES KAGOSHIMA

鹿児島県ユニークベニュー
活用促進事業事例集



令和4年度版

鹿児島県観光・文化スポーツ部文化振興課

ユニークベニュー活用促進事業事例集（令和4年度） 目次

令和4年度 ユニークベニュー活用促進事業概要	1
令和4年度 ユニークベニュー活用促進事業実施団体一覧	2
File01 神話ゆかりの地×伝統・創作芸能	3
File02 神社×伝統芸能	6
File03 神社×人形浄瑠璃	9
File04 縄文の森×ミュージカル	12
File05 大名庭園×伝統芸能・和楽器	15
File06 歴史的建造物×大衆芸能	17
新聞記事	20

ユニークベニュー活用促進事業

予算12,615千円

県内各地にある様々な歴史・文化資源をイベント等の会場として積極的に活用し、その価値や魅力を広く発信することにより、県民の文化芸術に関する関心を高めるとともに、県内外からの誘客の促進や交流人口の拡大を図る。

事業概要

- 1 地域の歴史・文化資源を生かしたイベント等の開催支援 12,000千円
補助率 補助対象経費から入場料等収入を控除した額の2/3以内
上限額 300万円
- 2 選定委員会の開催, 報告書等の作成等 615千円

補助対象事業

地域の美術館・博物館, 神社・仏閣, 文化財等を活用したイベント等の開催
(※県内のモデル事例)
 ・文化財等の魅力や特徴を生かしたもの
 ・鹿児島ならではの伝統・歴史を体感できるもの
 ・文化財等の保存に影響を与えないもの
 ・誘客や交流人口の拡大, 地域の活性化に資するもの
 ・今後の活用促進につながるもの など

補助対象者

- ・文化芸術団体, 観光団体, 商工団体, 民間事業者, NPO
- ・市町村・民間事業者等で構成する実行委員会 など (市町村単独は対象外)

ユニークベニューとは

特別な場所×イベントで特別な体験を創造すること



博物館や世界文化遺産でのコンサート



史跡でのディナーショー



歴史的建造物でのアートイベント

期待される効果

- ① 施設や文化財等の認知度向上
- ② 施設等の利用料収入
- ③ 交流人口拡大, インバウンドを含む誘客の促進
- ④ 地域の活性化, 地域のブランド力向上

令和4年度 ユニークベニュー活用促進事業 実施団体一覧

	応募団体名	事業名	会場	開催時期
1	特定非営利活動法人神代の守り人 (薩摩川内市)	ドラマティック 神話 ～蘇る竜宮伝説～	枚間神社 (指宿市)	11月19日(土)
2	「青葉の笛」地域歴史伝承の会 (霧島市)	青葉の笛まつり 「響きの世界」	日枝神社境内及び 台明寺溪谷公園 (霧島市)	7月24日(日)
3	地縁団体 春牧区 (熊毛郡屋久島町)	盛久神社で人形浄瑠璃・ 盛久を楽しむ	盛久神社 (屋久島町)	10月1日(土)
4	特定非営利活動法人きりしま創造舞台 (霧島市)	夜空の下のミュージカル ～縄文の風を感じて～	上野原縄文の森 (霧島市) ※荒天のため霧島 市国分シビック センターに会場 を変更して実施	8月20日(土)
5	桐の音楽院 (鹿児島市)	和フェス in鹿児島 ～薩摩の名勝世界遺産の 仙巖園できく和楽器の 調べ～	仙巖園 (鹿児島市)	11月19日(土)
6	有限会社Sitiera (鹿児島市)	住吉社中のおでばり 知覧武家屋敷編 肝付二階堂家住宅編 出水武家屋敷編	知覧武家屋敷庭園 (南九州市) 二階堂家住宅 (肝付町) 出水武家屋敷群 (出水市)	9月23日(金・祝) 9月25日(日) 10月16日(日)

File 01

神話ゆかりの地
×
伝統・創作芸能

指宿市
開間町
枚間神社



1

主催

特定非営利活動法人 神代の守り人(薩摩川内市)

2

イベントの概要

神話では天孫降臨したニニギノミコト一行は南薩一帯に神代三代の足跡を残す。そのなかでも山幸彦、海幸彦の物語りは指宿市開間町が舞台になる。開間町に伝わる竜宮伝説を掘り起こし紙芝居、音楽そしてバレエを創作し悠久の時を越えて神話の山幸海幸の竜宮伝説を再現する。

3

工夫したポイント

- (1) 会場の価値や魅力を発信するための工夫
薩摩一の宮枚間神社は和同元年(708年)に創建され南薩地方の総鎮守として人々の厚い信仰を集めている。今回のユニークベニュー事業の趣旨を宮司様、職員の皆さまにご理解頂き何度も打ち合わせの末、11月19日のイベントに神社を全て開放下さった。日頃は使用できない勅使殿、拝殿など神様が鎮座される神域を本事業の成功の為に使わせて頂いた事はこれからの神社と文化財の在り方、関わり方などに新しい可能性を見出した。
- (2) 文化芸術の価値や魅力を発信するための工夫
本事業の目玉のひとつ世界的バレエダンサー西島数博さんと鹿児島の白鳥バレエ団、白鳥五十鈴さんとの山幸彦、豊玉姫の創作バレエの制作でした。二人とも初顔合わせのため東京と鹿児島を何度も往復しながら練習を重ねた。また舞台は夕暮れ時にあわせライトアップとスモークをたき幽玄の世界を演出した。

3 工夫したポイント

- (3) 誘客の促進・交流人口の拡大のための工夫
指宿市の広報誌に掲載、南日本新聞に事前取材、ラジオ出演等で増員を図る。
- (4) 参加者が特別感を得られるように演出上工夫したポイント
世界のエンターテインメントの世界を熟知しているバレエダンサー西島数博さんの芸術性の高い演出を実現すべく宮崎県の音響照明会社は西島さんの指示で3度現地入りし、本番の行われる19時に下見を行い薄暮の具合をチェックする。プロの舞台上で使用する照明など使用し特別感を演出した。
- (5) 地域との連携において工夫したポイント
指宿市図書館と連携しながら開聞町の伝承をもとに紙芝居（黄金伝説）を制作し会場で上演、郷土史家松下尚明さんと連携し枚聞神社の由緒を深く探る講座を開く。
- (6) 会場の特性に起因する制約と解決のために工夫したポイント
大事な文化財がある神社が会場になるので運搬、搬入には特に気を付けてリハーサルを重ねた。
- (7) 参加者の安全確保、利便性向上のために工夫したポイント など
コロナ感染拡大予防に気を配り消毒液を各所に設置、椅子などの消毒を徹底した。

4 実施にあたっての課題

ユニークベニュー事業は事業の対象となる「場所」の選択が重要になる。
当団体は神話活動を主としており神社がユニークベニュー事業の「場所」になる。
神社は幾千年、日本人のアイデンティティーが内含されている。
そのため神社を芸術文化の舞台とするには、神社側との綿密な打ち合わせが必要である。そこで一番の課題になるのが神社で行う事業の有料化の問題である。
基本的に神社は誰でも参拝できるので有料化する慣例がほとんどない。そこで参加料を徴収する意義や意味を神社側と話し合いながら丁寧に進めていった。

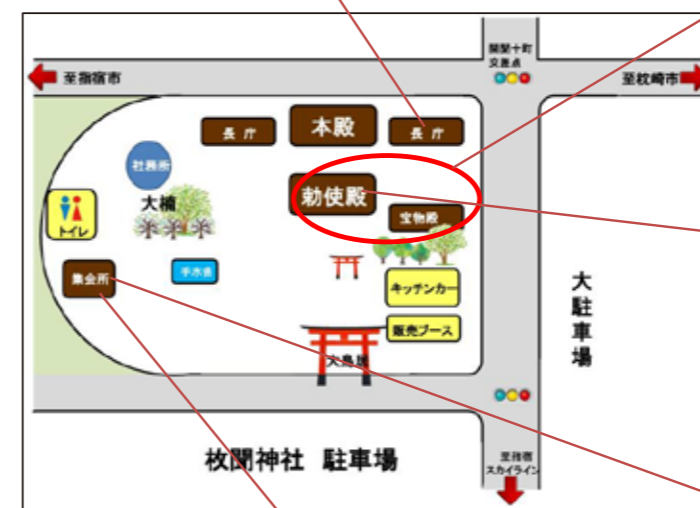
イベントレイアウト



創作バレエ



客席と勅使殿でのプロローグ



篠笛演奏



落語



講演

イベント名称：ドラマティック神話
～蘇る竜宮伝説～

日時：令和4年11月19日（土）
参加人数：約250人

File 02

神社 × 伝統芸能

霧島市
国分台明寺
日枝神社



1 主催

「青葉の笛」地域歴史伝承の会（霧島市）

2 イベントの概要

青葉の竹を祀る日枝神社境内の特設ステージにて、物語の由来記載の小冊子配布や歴史講演、ゲストコンサートなどを実施。

地域にまつわる伝統や物語の地域住民への理解訴求を努めると同時に、県を代表する歴史観光地域としてその価値を広報する。

（イベント内容）

神事、歴史記載小冊子配布、歴史伝説講話、横笛演奏、イメージソングの披露、ゲストによる尺八&ギターによるスペシャルコンサート

3 工夫したポイント

- 1) 会場の価値や魅力を発信するための工夫
会場への歩行来訪が厳しいため(道路が狭く登坂難航)、特設駐車場の設置と送迎バスなどを駆使して、近隣住民参加の便利を図った。
- 2) 文化芸術の価値や魅力を発信するための工夫
神社の雰囲気を活かしたステージ構成および歴史を繋ぐ竹による楽器（横笛、尺八）を中心とした和のコンサートを実施。また歴史物語のDVD制作によりYouTube発信や広域PRに努めた。校名にその由来を持つ地域の小学校の演奏参加なども大きな地域文化伝承への役割を果たした。
- 3) 誘客の促進・交流人口の拡大のための工夫
市内を中心としたチラシ、ポスターの配布、また市内対象地区や鹿児島中央駅構内での告知広報（公民館告知）、およびマスコミ発表など広域的な誘客促進に努めた。

3 工夫したポイント

- 4) 参加者が特別感を得られるように演出上工夫したポイント
青葉の竹由来の神社の神秘的な景観と荘厳な雰囲気を活かしたステージづくり。植物に覆われた小川の上の凸凹地に特設ステージを設置し、森の中に竹の音と水音が響きあう独自の世界をコンセプトにしたコンサートイベントを企画。
- 5) 地域との連携において工夫したポイント
地域公民館を主体とした住民協議会を設置し、多くの人々が関与するイベントとして準備。結果、数回にわたる主旨説明会が功を奏し、当日の消防団などのボランティア活動、また地域建設会社による特設駐車場設営など多くの地域市民の協力によるイベントとなった。
- 6) 会場の特性に起因する制約と解決のために工夫したポイント
会場の場所が極めて来訪困難な位置《狭くて急な坂道であり、車通行が出来ない》のため、まずは近隣地まで希望者を運ぶこと（送迎バス使用）、また現場までの参加者送迎車（軽自動車による登坂送迎）を駆使し、結果、予定とされる200名を大きく超す参加者となった。
- 7) 参加者の安全確保、利便性向上のために工夫したポイント など
神社境内入口に総合入場口を設け、体温検査やアルコール消毒、来訪者記入などを実施。また会場周辺には60器の蚊取り線香を焚くなど環境づくりを実施。定時の送迎バスなど参加者への利便性は確保されたものと思う。

4 実施にあたっての課題

- 1 ユニークベニュー事業の地域住民への意識理解、住民協力への組織づくり
- 2 定期イベント実施への資金調達企画（クラウドファンディングなど）
- 3 明確なイベントコンセプトの設定および地域影響力
- 4 プログラム実施のためのスタッフ構成
- 5 伝承できるイベントアイテムやアプリケーションの策定
などが、今後の地域課題としてあげられるのではないのでしょうか。
いずれにせよ、特に、「歴史・文化的施設を舞台として文化芸術イベントを実施する」というユニークベニュー活用事業は、地域の資産として残すべき課題ではないのでしょうか。

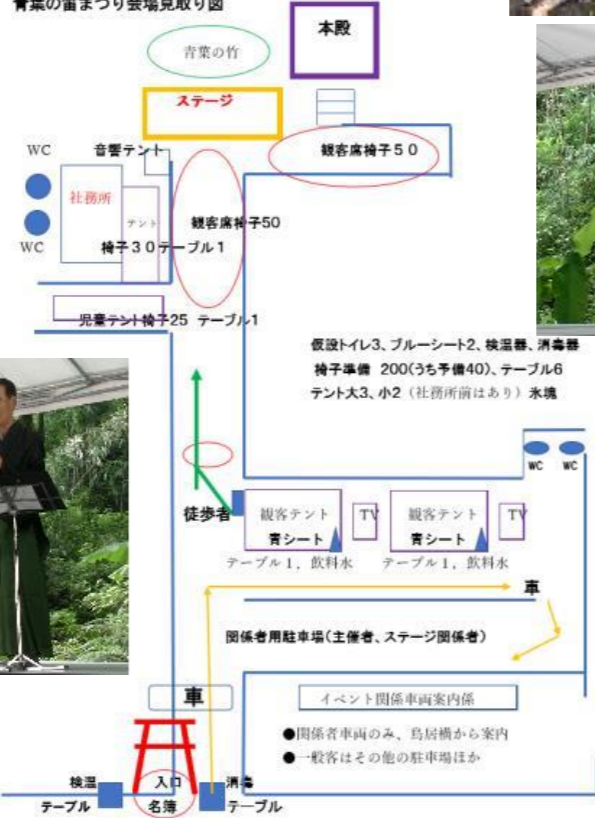
イベント名称：青葉の笛まつり
「響きの世界」

日時：令和4年7月24日（日）
参加人数：約300人

イベントレイアウト



青葉の笛まつり会場見取り図



File 03

神社 × 人形浄瑠璃

屋久島町
安房
盛久神社



1 主催

地縁団体 春牧区(屋久島町)

2 イベントの概要

- ① 里めぐり観光で活用している紙芝居を利用して、盛久神社の由来を紹介するとともに、人形浄瑠璃・盛久にまつわるキーワードを紹介。
- ② 近松門左衛門作人形浄瑠璃「盛久」第1段を佐渡に伝わる国の重要無形民俗文化財となっている文弥芝居の真明座が披露。
- ③ 「盛久」第2段から第4段までのダイジェストを青年団と仲間たちによる寸劇で紹介。
- ④ 近松門左衛門作人形浄瑠璃「盛久」第5段を佐渡に伝わる国の重要無形民俗文化財となっている文弥芝居の真明座が披露。

3 工夫したポイント

- (1) 会場の価値や魅力を発信するための工夫
人形浄瑠璃盛久の前座で、盛久神社の由来を紹介することで、なぜ平盛久がここに祀られているかを広くアピールすることができた。
また、舞台を盛久神社に向けることで、盛久公にも奉納することができた。
あわせて、青年団による寸劇を入れることで、かつての盛久神社大祭の賑わいを地域の方々へ思い起こしていただくことができた。
- (2) 文化芸術の価値や魅力を発信するための工夫
人形浄瑠璃は初めてという島の方々が多いため、いかにわかりやすくするかに腐心した。チケットとなる解説書を作成して、あらかじめ人形浄瑠璃のあらすじを読んでいただくことにした。また、紙芝居や寸劇を入れることで現代語で前後の状況をわかりやすく説明した。



3 工夫したポイント

(3) 誘客の促進・交流人口の拡大のための工夫

春から区報を通して盛久にまつわる連載を行い、盛久神社の由来や人形浄瑠璃のあらすじを紹介して気運を盛り上げた。また、町報、町内放送、区内放送、ポスター、チラシなどを駆使して誘客を行った。

(4) 参加者が特別感を得られるように演出上工夫したポイント

盛久神社を提灯やランタンで飾り、夜はライトアップしてアピールした。また、チケットとなる解説書を厚紙にしてプラチナチケット感を演出した。

(5) 地域との連携において工夫したポイント

春から区報を通して盛久にまつわる連載を行い、盛久神社の由来や人形浄瑠璃のあらすじを紹介して機運を盛り上げた。また、区の育成会に紙芝居を披露して、子どもたちにも盛久神社のことを知ってもらうように工夫をした。

(6) 会場の特性に起因する制約と解決のために工夫したポイント

屋外のイベントであったが、当日は晴天に恵まれたものの、昼の部に関しては暑さ対策が問題となり、急遽テントを張るなどの対策を行い、熱中症等を予防した。

音響・照明灯に関してはプロに依頼することにより、質の良い舞台を提供することができた。

(7) 参加者の安全確保、利便性向上のために工夫したポイント

コロナ対策として、無料ではあるものの、事前予約制として人数制限を行い、入場の際に検温、手指消毒、マスク着用の確認を行った。結果としてこのイベントでのコロナ感染は広がらなかったと考えている。

昼の部では急遽暑さ対策としてテントを張り、日陰を作ったことにより、途中熱中症等で気分を悪くする人も出なかった。

4 実施にあたっての課題

盛久の能の公演のオファーが来ているが、能舞台を野外に作るのは困難で、近くの中学校の体育館での開催が予想される。盛久神社を盛り上げるとい意味では今回の事業と全く変わりはないが、少し離れた場所でのイベントの開催についても内容等から柔軟に対応する必要があると考えられる。

また補助裏を確保する方法として、自己資金の他に入場料を充てることが可能となれば、イベントの実施がもう少し取り組みやすくなると思う。

イベント名称：盛久神社で人形浄瑠璃・盛久を楽しむ

日時：令和4年10月1日（土）
参加人数：300人

File 04

縄文の森 × ミュージカル

霧島市
国分上野原
上野原縄文の森



1 主催

特定非営利活動法人 きりしま創造舞台（霧島市）

2 イベントの概要

【当初計画】

開催場所は10、500年の歴史ある上野原縄文の森で、竪穴住居のある屋外展示場を舞台とする。開始時間は日没から暗くなるまでの時間の経過を使い、周辺には影響を受ける住宅等もないことから音楽と光の幻想的な雰囲気の中で市民参加型のミュージカル公演を実施する。また、当団体に属する地元アイドルグループによるミニライブや出演者の保護者は地元で伝わる民話をプロジェクターで映して紙芝居を披露する。

また、公演終了後には花火を打ち上げて屋外ならではの演出とする。

【実績】

当日は天候不良により、会場を屋内に移して実施した。受付では縄文人の服を着て出迎えた。公演後に観客に花火の打ち上げ会場へ移動していただき打ち上げ花火を実施した。

3 工夫したポイント

(1) 会場の価値や魅力を発信するための工夫

上野原縄文の森の屋外展示場にある竪穴住居前をステージとし、夜に実施することで、昼間にはない縄文の森の魅力を伝えるように考えた。

屋外の地形はすり鉢状になっていて、演じる側はすり鉢の下に、観客はその上の斜面を座席とすることで自然のホールになるように工夫した。

会場が屋外ということで、上野原にある企業と連携して上野原では初めての打上花火を実施し、さらなる魅力の発信に努めた。

(2) 文化芸術の価値や魅力を発信するための工夫

屋外でミュージカルの公演をする意外性と、地域の民話を鹿児島弁で演じる紙芝居、地元アイドルのミニライブなどさまざまな舞台芸術の魅力を発信できるように努めた。

ミュージカルでは、市民参加型で小学生から高齢者まで約30人が4月から5か月間、稽古を継続した。ストーリーは人と自然との共生を描いた。

出演者自身もバスツアーを企画してみんなで一緒に縄文の森について学習し、縄文の森の魅力を発信できるようにした。

3 工夫したポイント

(3) 誘客の促進・交流人口の拡大のための工夫

ラジオや新聞、当団体のホームページやSNS等で市内外への発信、市内電光掲示板での宣伝を行った。また、市外の文化センター等へのポスター掲示など市外への宣伝に努めた。

(4) 参加者が特別感を得られるように演出上工夫したポイント

竪穴住居周辺にある樹木にレーザー光線を当て、屋外の広さ、奥行きを最大限に使う工夫を行う予定だった。当日は雨で公演会場は国分シビックセンター多目的ホールに変更になったが、それでも公演終了後に10分間の花火を上野原縄文の森で打ち上げた。また、本来なら公演のための音響機材を使って音楽花火とするはずだったが、残念ながらできなかった。

(5) 地域との連携において工夫したポイント

ミュージカル出演者は霧島市を中心とした小学生から高齢者までの市民と、紙芝居は出演者の保護者で、4月から約5か月間、ミュージカルは毎週2回稽古を続けてきたことで、子供たちは違う学校の友達ができ、保護者の方々も週1回稽古をし、他の保護者とコミュニケーションをとることで公演が近づくにつれて和気あいあいとしたいい雰囲気になり、保護者の方も舞台に立つ喜びを感じ充実した公演となった。

(6) 会場の特性に起因する制約と解決のために工夫したポイント

屋外に電源はあるものの音響、照明を使用するだけの容量が不足していたため、別に電源を確保する必要があったので、発電機を準備した。また、舞台袖の着替えなどについてはテントを張ることとし、音響、照明のオペレーション席については、突然の雨で機材が濡れないように透明のシートを前面に張るようにした。

舞台とした場所も地面に大きな穴があったため、砂を入れた土のう袋を100袋準備し、穴を埋める工夫をした。

(7) 参加者の安全確保、利便性向上のために工夫したポイント など

駐車場から会場までは利用できる導線が複数あったため、要所に誘導員を配置し、また、会場内はあちこちに穴があるため、投光器により明かりを確保し観客の安全に配慮した。

4 実施にあたっての課題

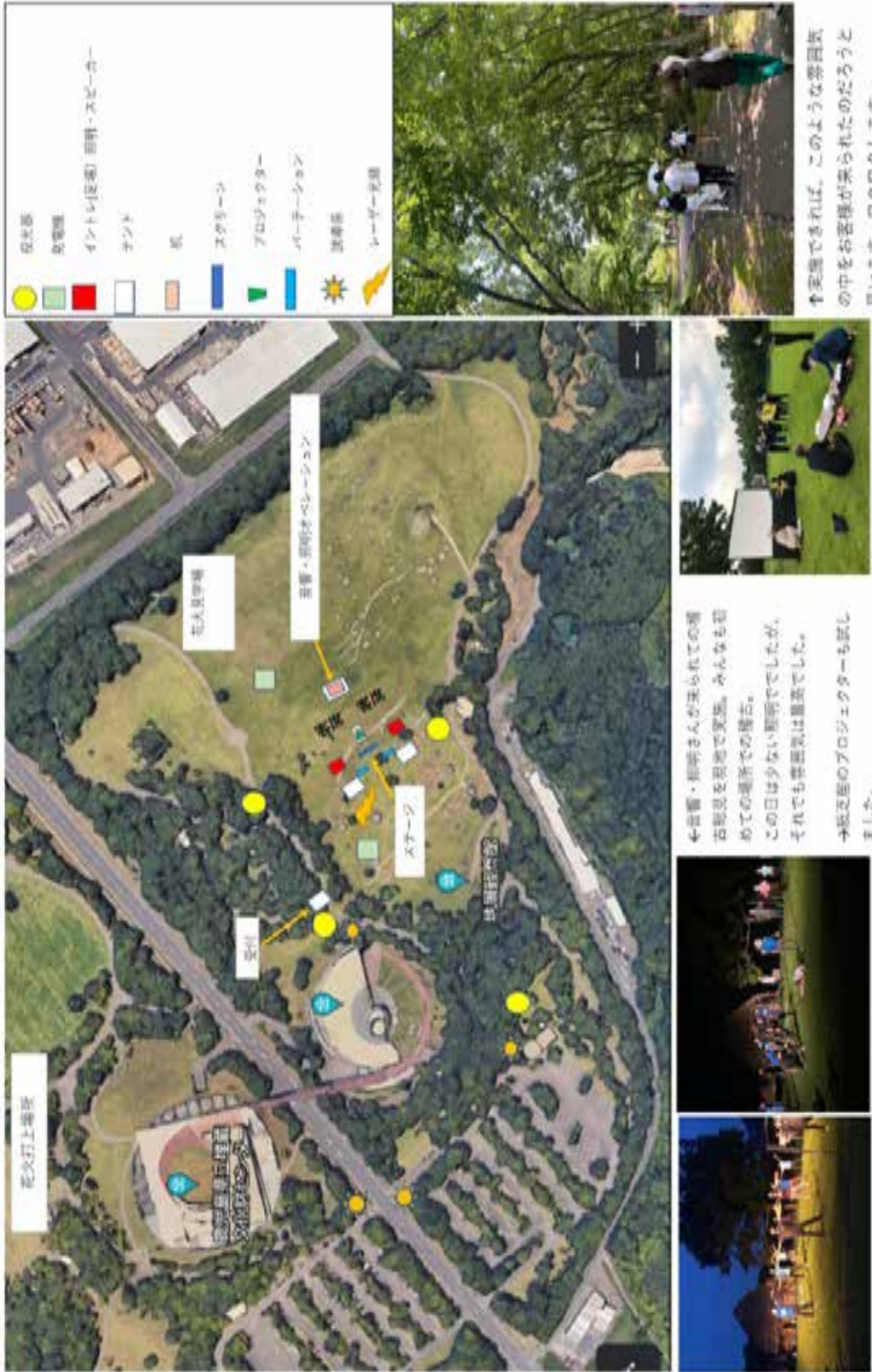
- 雨天の場合は、会場を屋内である霧島市役所の国分シビックセンター多目的ホールで実施することとした。そのため、前日早朝にはどちらでするかを判断しないといけなかった。チケットには当日の会場を確認するようにQRコードを掲載し、ホームページでも周知、QRコードから申し込んだ方へはメールでのお知らせ、出演者が販売した人へは直接、電話をするなどしたが、それでも上野原縄文の森に来られた方がいたので、会場変更時の伝達方法や開催方法などをさらに工夫する必要がある。
- 予備日を設け、翌日にできないか検討する必要がある。
- 上野原縄文の森は下場よりも涼しい気候ではあるものの、熱中症や体調管理などのために扇風機や体を冷やす氷など暑さ対策を伴うため、秋もしくは春の気候的に屋外で実施できる時期を選ぶ必要がある。
- 屋外公演は初めてのことで、テントや発電機、音響・照明を設置するイントレ（足場）、暑さ対策のための扇風機やスポットクーラー、会場整地のための費用 など当初の計画と違うところがあり、支出の増加が予想され、予算的に厳しいところがあったので、次回公演の時にはこのようなことも考慮して実施する必要がある。
- 私たちだけの公演とするのではなく、もっと上野原縄文の森の展示館の利用を促す工夫ができればよかった。
- 展示館の利用規則では、園内での飲食などの販売ができないのであるが、フリーマーケットのようなものとコラボできるともっと、多くの方にミュージカルだけではなく、大きな祭りとしての魅力を発信できるのではないかと。

イベント名称：夜空の下のミュージカル
～縄文の風を感じて～

日時：令和4年8月20日（土）17:00-20:00
参加人数：約180人

イベントレイアウト

夜空の下のミュージカル会場配置図及びリハーサル風景



※実施できれば、このような雰囲気の中をお客様が楽しめたのだからと思います。ワクワクします。



←音楽・器楽体験場がまわりの環境を現地で見学。みんなも初めての場所での様子。この日は少ない練習でしたが、それでも音楽は楽しめました。→仙巖園のプロジェクターも試しました。



File 05

大名庭園 × 伝統芸能/和楽器

鹿児島市
吉野町
仙巖園



1 主催 → 桐の音楽院（鹿児島市）

2 イベントの概要 → 鹿児島が世界に誇る仙巖園における日本の第一線で活躍する和楽器のプロによる演奏。

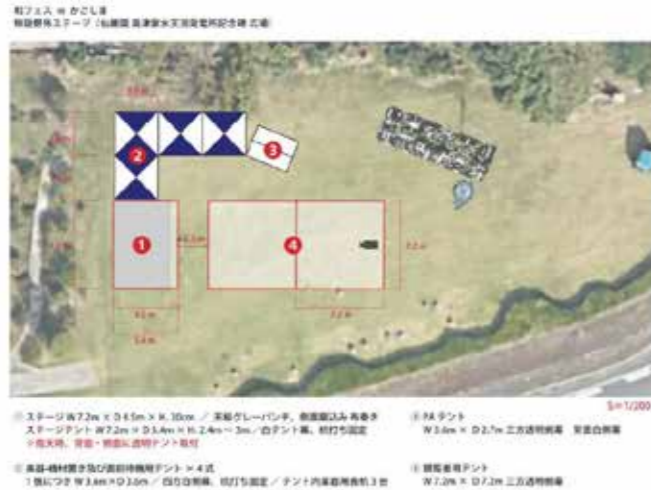
3 工夫したポイント →

- 1) 会場の価値や魅力を発信するための工夫
仙巖園の3ヶ所で、それぞれイベント開催することで、広大な敷地内の各エリアを堪能してもらおうと考えた。また2022年オープンした体験施設を取り入れる事で、仙巖園が進化していることの認知度をあげようと試みた。
- 2) 文化芸術の価値や魅力を発信するための工夫
和楽器は多様なジャンルに分かれているため、楽器や種別同士の交流が難しいのが現状である。本イベントでは、その垣根を取り払うべく、コンサートでも多種のジャンルでの共演、そして実際にはなかなか触れることのない琵琶という楽器のワークショップを企画した。
- 3) 誘客の促進・交流人口の拡大のための工夫
チラシの折り込みや新聞やラジオといった従来の広報活動、そしてSNS（twitter, Facebook, Instagram, note）での告知にも力を入れた。
- 4) 参加者が特別感を得られるように演出上工夫したポイント
普段ではなかなか一緒にステージに立つことが難しいプロ奏者と、愛好者たちが一緒に演奏するミニコンサートを立ち上げたこと。また前日にプロから直接指導を受ける事という特典もつけたこと。
- 5) 今後の課題等
今回はメインコンサートを野外においたため、最後まで天候という不安要素があった。事前に過去10年間の天気データを調べ、日程を設定したが、絶対という事はないと痛感した。委託会社のおかげで、テント確保追加設営という一週間前の急な変更にも対応できたが、決定のタイミングが遅ければそれも難しかったかもしれないという可能性が否めなかったのは、大きな反省点。

イベント名称：和フェス in 鹿児島 ～薩摩の名勝世界遺産の仙巖園できく和楽器の調べ～ | 日時：令和4年11月19日（土）
参加人数：250人

イベントレイアウト

〈特設野外ステージコンサート@桜島展望広場〉



(客席側からの舞台の様子)



(舞台用と観客席側に設置テント)

〈和楽器ミニコンサート@反射炉前広場〉



(反射炉前広場のテント設置場所と一緒に弾こうミニコンサートの様子)



File 06

歴史的建造物
×
大衆芸能

南九州市
知覧武家屋敷群
肝付町
二階堂家住宅
出水市
出水武家屋敷群



- 1 主催 → 有限会社 Sitiera (鹿児島市)
- 2 イベントの概要 → 有形文化財を舞台とした伝統的な大衆芸能イベント
- 3 工夫したポイント →

(1) 会場の価値や魅力を発信するための工夫

イベント案内のチラシや SNS・WEB サイトでの情報発信時に、演者である住吉社中のアピールよりも、会場となる建物の写真・特徴を伝える文章などを重視し、会場の価値を最大限に伝えられるよう努めた。

また、前年度の経験を活かし、事前訪問・会場周辺地域の調査を入念に行い、イベント案内時から会場や地域の魅力を積極的にアピールした。さらに、資料・作品として制作した映像や写真についても、今年度はさらに会場の良さを伝えるものになるよう努めた。

(2) 文化芸術の価値や魅力を発信するための工夫

県内に身近に存在する歴史的建造物を鑑賞の会場にするこのイベントでは、文化財等を見学だけでなく、建物の中に入り、イベントの時間を通して実際にその場での生活時間を体験することができる。二次的な経験ではあるが、文化財に直に触れ、見聞きすることは、大切に受け継がれてきた文化財を理解し、次代に残していく心を醸成することにつながるものである。

イベントを体験した観客が、文化財の魅力や価値と、伝統的なお座敷芸の魅力や価値について、今後多くの方々に伝えてくれることになると考える。また参加者・非参加者を問わず、開催時の様子を記録した写真や映像作品を通じ、その魅力について知ったり楽しむことができるようにした。

3 工夫したポイント

(3) 誘客の促進・交流人口の拡大のための工夫

住吉社中のお座敷芸を求めて鹿児島市内から各会場に訪れるお客様に加え、前年度は会場となる地域の、お座敷芸をご覧になったことのないお客様にも多く参加頂けた。今年度も各地域の方々の積極的な参加を促すため、地域の協会や役所、地元のお店などにも積極的に情報案内に協力いただき、案内周知に努めた。

またイベントの動画配信を行うことで、ユニークベニューの全国への周知に繋げている。

(4) 参加者が特別感を得られるように演出上工夫したポイント

会場となる文化財は、内部の照明や参加者の動線に工夫を凝らし、文化財や該当エリアが現代に蘇ったような感覚を持ってもらえるよう工夫した。

また県産のお茶と和菓子でイベントのオープニングを楽しむ、煎茶のお席を用意した。

(5) 地域との連携において工夫したポイント

事前に該当エリアを訪問し、会場の調査や選定を行うことに積極的に時間を割いた。また、管理者や地域の担当課、協会などと密な連携を図り、会場となる文化財だけでなくその周辺地域の魅力を発信できるよう努めた。

(6) 会場の特性に起因する制約と解決のために工夫したポイント

前年度の経験を活かし、会場となる文化財の清掃や整理を徹底し、清潔感を大切にしつつ現状を崩さないような会場づくりを行った。

また、チケット代を徴収するイベントであるが、屋外の庭園部分からは一般の観覧者も多く観覧できるよう工夫した。

(7) 参加者の安全確保、利便性向上のために工夫したポイント

各会場において、行政や地域の協力のもと駐車場の確保と場所の事前周知に尽力した。

老朽化が進んだ建物やエリアにおいては、危険箇所をあらかじめスタッフ間で共有し、お客様の安全を第一に考えた誘導を行った。

新型コロナウイルス等への感染を回避するため、会場内の積極的な換気や入退場時の手指消毒・連絡先の情報収集、必要なシーンでのマスク着用の徹底を行った。

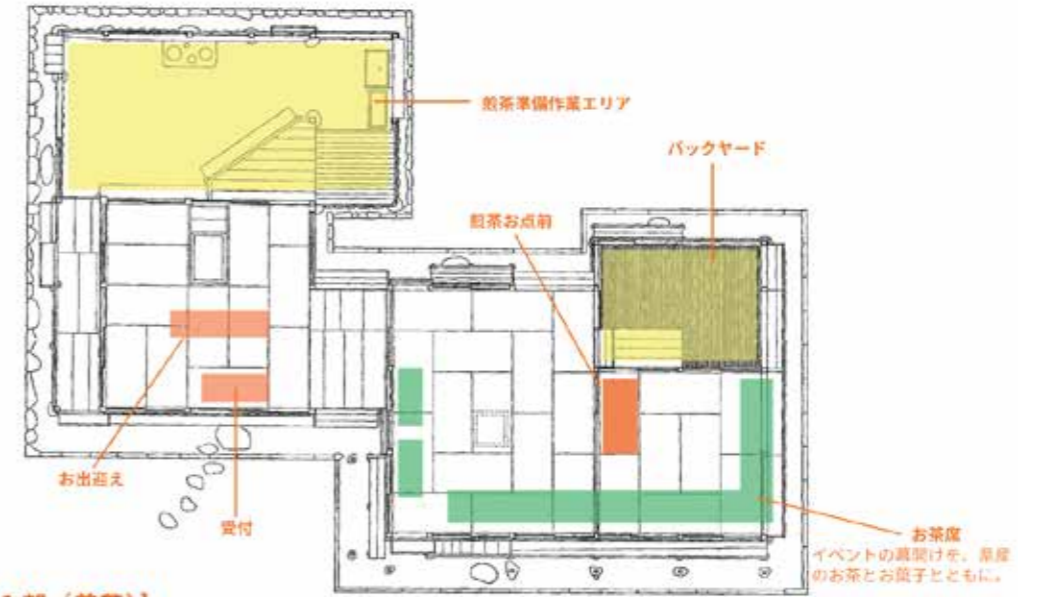
4 実施にあたっての課題

前年度に引き続き、このユニークベニュー事業では、普段では知ることができない特別な場所を実際に訪れ、体験し知ることができる、大変素晴らしい事業であった。

文化財の管理状態や管理者の文化財に対する意識、老朽化への対応、県民への周知など、多くの課題が今年度も多く見つかったが、それ以上に文化財の価値や、その価値を理解し次代に継承していく必要性についても理解することができたと思う。

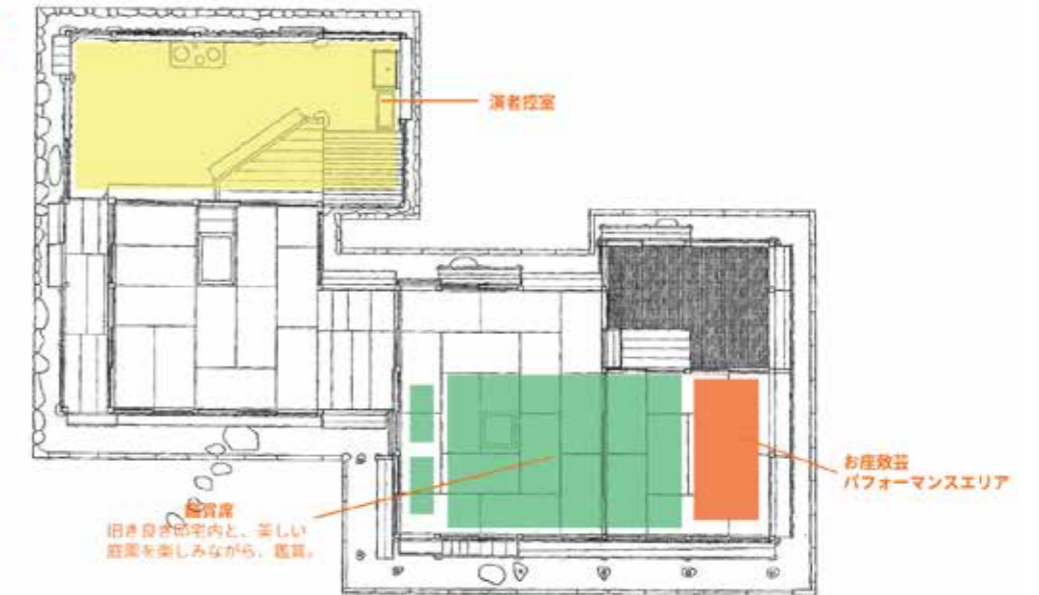
イベントレイアウト

二階堂家住宅（肝属郡肝付町）



【第1部（煎茶）】

美しい日本庭園
部内からは美しい日本庭園を堪能。



【第2部（お座敷芸）】

美しい日本庭園
部内からは美しい日本庭園を堪能。

イベント名称：住吉社中のおでばり 知覧武家屋敷編 肝付二階堂家住宅編 出水武家屋敷編 | 日時：令和4年9/23, 9/25, 10/16 参加人数：100人

